

(様式第 10 号) (第 53 条関係)

施工状況等報告書

令和 2 年 7 月 3 0 日

長野県知事 阿 部 守 一 様

松本市長 臥 雲 義 尚 様

安曇野市長 宮 澤 宗 弘 様

池田町長 甕 聖 章 様

所在地 長野県安曇野市穂高北穂高 1589 番地 2

名 称 穂高広域施設組合

管理者 宮 澤 宗 弘

長野県環境影響評価条例第 32 条第 1 項の規定により、下記のとおり送付します。

記

対 象 事 業 の 名 称	穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業
報 告 対 象 期 間	令和 2 年(2020 年) 4 月 1 日から 令和 2 年(2020 年) 6 月 3 0 日まで
環境の保全のための措置の状況	詳細は別紙添付資料のとおり
対 象 事 業 の 実 施 状 況	詳細は別紙添付資料のとおり

(備考) 必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

－ 目 次 －

1. 環境の保全のための措置の状況

1-1 環境保全措置状況

1-2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真

2-1 工程表

2-2 総合仮設計画図

2-3 現況写真(4月,5月,6月)

2-4 主な工事写真

1. 環境の保全のための措置の状況

1-1_環境保全措置状況(1/2)

令和2年4月から6月までの間は、これまで報告した環境保全措置を継続して実施した。

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料	
				種類	実施内容	実施状況		
1 大気質	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導			
		対象事業実施区域	暖機運転(アイドリング)の低減	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理			
			工事用出入り口の路面洗浄	低減	散水による路面洗浄の実施			散水により路面を洗浄した。
	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事用仮囲いの設置	低減	周囲に工事用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			排出ガス対策型機械の使用	低減	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			建設機械稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
2 騒音	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導			
	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事用仮囲いの設置	低減	周囲に工事用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型建設機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			建設機械の稼働時間の分散	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
	(1) 工事関係車両の走行による影響	対象事業実施区域	低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型建設機械の採用	低騒音型機械を採用し、振動の抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
建設機械の稼働時間の分散			低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
建設機械の稼働時間の抑制			低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
建設機械の稼働時間の抑制			低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
3 振動	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導			
	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型建設機械の採用	低騒音型機械を採用し、振動の抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			建設機械の稼働時間の分散	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
4 水質	(1) 建設工事中の土地造成、掘削、舗装工事・コンクリート工事による雨水への影響	対象事業実施区域	降雨時	沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
				雨水排水の濁りの監視	低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水を沈降させ、上澄水を放流		
				凝集剤による土壌の沈殿促進	低減	放流水質が河川水質を悪化させる恐れがある場合は凝集剤による土壌の沈殿を行う		
				アルカリ排水中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
湧水排水時	湧水処理の実施	低減	湧水を場外へ排水する場合は、十分な容量の仮設処理水槽を設置し、濁水処理資材等により処理してから放流する	20m ³ の仮設処理水槽を3基設置し、ろ過材に通すことで濁水処理を行った。	①			
	放流水の監視	低減	湧水を場外へ排水する場合は、濁度及びpHを定期的に監視し、異常があれば速やかに対策を講じる	処理後排水の濁度及びpHを日中数時間ごとに計測し、濁度50以下、pH6.5～8.5の範囲で管理した。				
5 水象	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施			
			適切な掘削方法の検討	低減	湧水期に掘削を開始			水位が上がる夏季を避けて掘削を開始した。
			湧水汲み上げの最小化	低減	湧水を汲み上げる場合には、その汲み上げ量が少なくなるよう、施工期間を短くする			湧水の汲み上げ量が少なくなるように施工期間を予定の20日間より4日短くした。
			地下水位の監視	低減	湧水を汲み上げる場合には、地下水位の連続観測を行い、水位を確認しながら施工を行う			観測井の地下水位が519.6m(湿地の水面標高)を下回らないよう連続監視し、顕著な地下水位の低下が起こらないよう管理した。
6 土壌汚染	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の全量再利用	回避	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	発生土を場内の埋め戻し等に再利用した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照	
7 地盤沈下	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			適切な掘削方法の検討	低減	湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施			
8 地形・地質	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			適切な掘削方法の検討	低減	湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施			
			矢板等の設置による崩落防止	低減	掘削面の崩壊を防止する			

【環境保全措置の種類】
 回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

※低振動型建設機械について
 現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

1-1_環境保全措置状況(2/2)

令和2年4月から6月までの間は、これまで報告した環境保全措置を継続して実施した。

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料
				種類	実施内容	実施状況	
9 植 物	(1)工事関係車両の走行による影響	対象事業実施区域	工事前仮囲いの設置	低減	周囲に工事前仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			工事区域への散水	低減	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域へ散水を実施した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
			生育地の保全	回避	できる限り生育地の改変を回避し、生育可能な状態を保全する	クマツヅラの生育地を自然緑地として残置し、生育地の改変を回避した施設配置とした。	2018年10月18日 施工状況等報告書参照
			個体の移植	代償	生育地の保全が困難な場合、個体の移植を実施	2018年度にアオガヤツリから採種した。2019年度中に播種の具体的な時期・場所を検討し、播種の計画を作成した。竣工後の保全措置としての播種の前に、2020年5月に現地で試験的な播種を行った。	2019年1月25日 施工状況等報告書参照 ②
10 動 物	(1)工事による影響	対象事業実施区域	騒音発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			振動発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
			生息地の保全	回避	できる限り生息地の改変を回避し、生息可能な状態を保全する	コウフオカモノアラガイの生息地を自然緑地として残置し、生息地の改変を回避した施設配置とした。	2018年10月18日 施工状況等報告書参照
			固体の移植	代償	直接影響を受ける種について、生息適地の調査と移植の実施	平成30年11月にヒメカメシの移植を実施。コウフオカモノアラガイは継続調査。	2019年1月25日 施工状況等報告書参照
11 生 態 系	(1)工事による影響	対象事業実施区域	工事前仮囲いの設置	低減	周囲に工事前仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			工事区域への散水	低減	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域へ散水を実施した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
			騒音発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			振動発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			地区外流出抑制対策の実施	低減	河川側に側溝を設置する	河川側に側溝を設置した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
			12 触 れ 合 い 活 動 の 場	(1)工事関係車両の走行による影響	対象事業実施区域	搬入出時間の分散	低減
交通規則の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導					
(2)建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事前仮囲いの設置		低減	周囲に工事前仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
		低騒音型・低振動型建設機械の使用		低減	低騒音型・低振動型建設機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音振動の抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
13 廃 棄 物 等	(1)工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の全量再利用	回避	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	発生土を場内の埋め戻し等に再利用した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
			コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	低減	コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	建設副産物は分別搬出の上再利用を行っている。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
			現場での分別排出	低減	現場で可能な限り分別排出を行う	建設副産物は分別搬出の上再利用を行っている。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照

【環境保全措置の種類】
 回避:全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 低減:継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償:代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

※低振動型建設機械について
 現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

<防火水槽設置工事について>

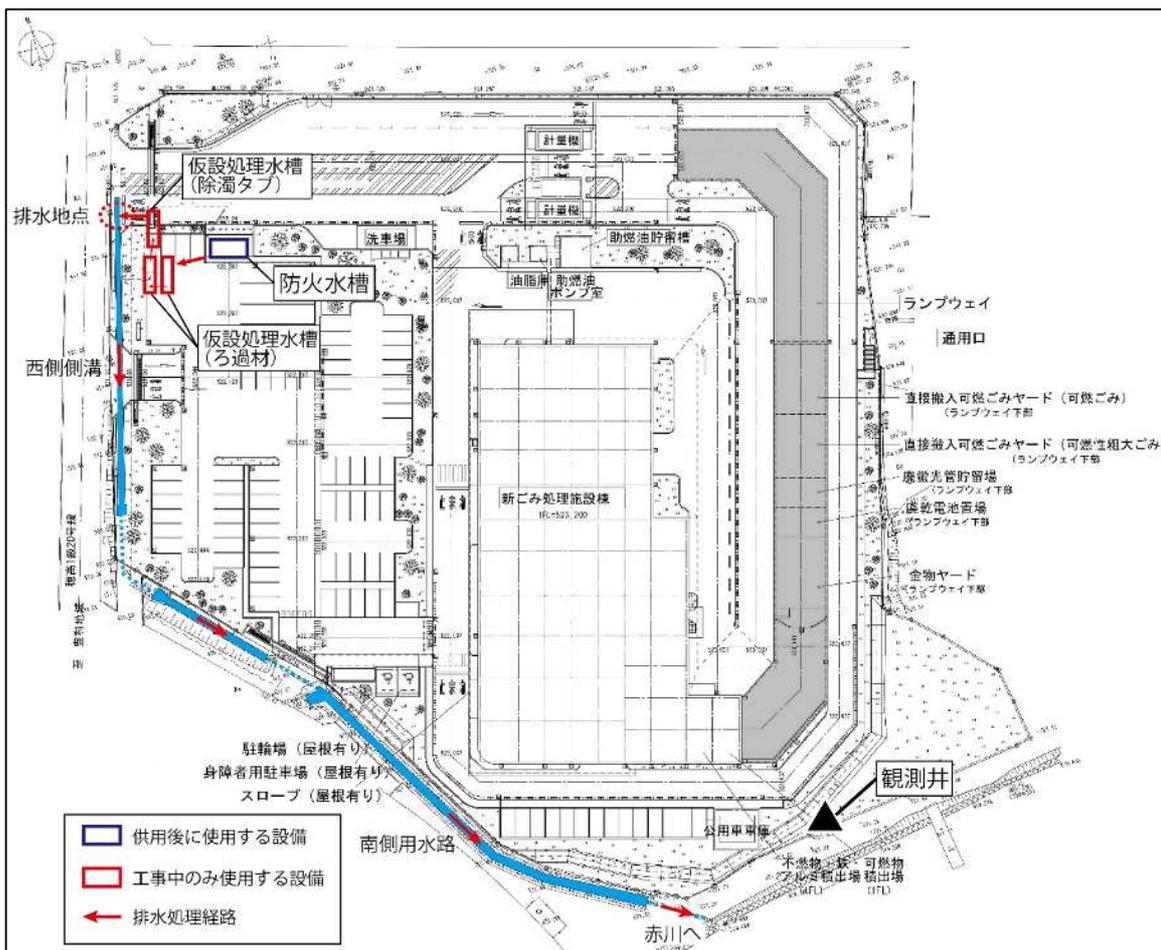
1. 工事の概要

対象事業変更報告書（令和2年5月14日）のとおり、防火水槽の設置工事を行った。工事の概要は表①-1に示すとおりである。

防火水槽設置工事では掘削に伴い発生する湧水が発生するため、仮設処理水槽で処理を行い、水質を監視しながら西側側溝を通じて場外への排水を行った。また、地下水位を連続測定により監視し、顕著な地下水位の低下が起こらないよう管理した。

表①-1 防火水槽設置工事の概要

防火水槽の設置と工事中の排水処理	
設置場所	対象事業実施区域内の北西側（図①-1 参照）
実施期間	令和2年5月18日～6月3日（予定期間は20日間）
実施内容	防火水槽の規模：40m ³ （外寸：長さ6.6m、幅3.4m、高さ2.6m） 掘削深さ：GL-4.3m 仮設処理水槽：20m ³ ×3基（地上設置） 排水量の想定：60m ³ /h 処理後排水の水質の管理目標 ・濁度：50以下 ・pH：6.5～8.5の範囲 地下水位の管理目標 ・観測井の地下水位：519.6m（湿地の水面標高）を下回らないこと



図①-1 防火水槽の設置場所

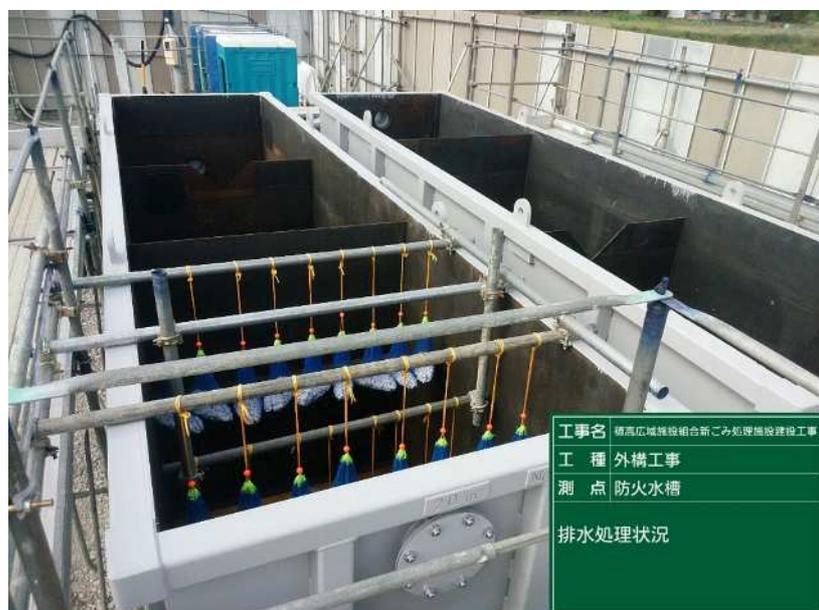
2. 工事の実施状況



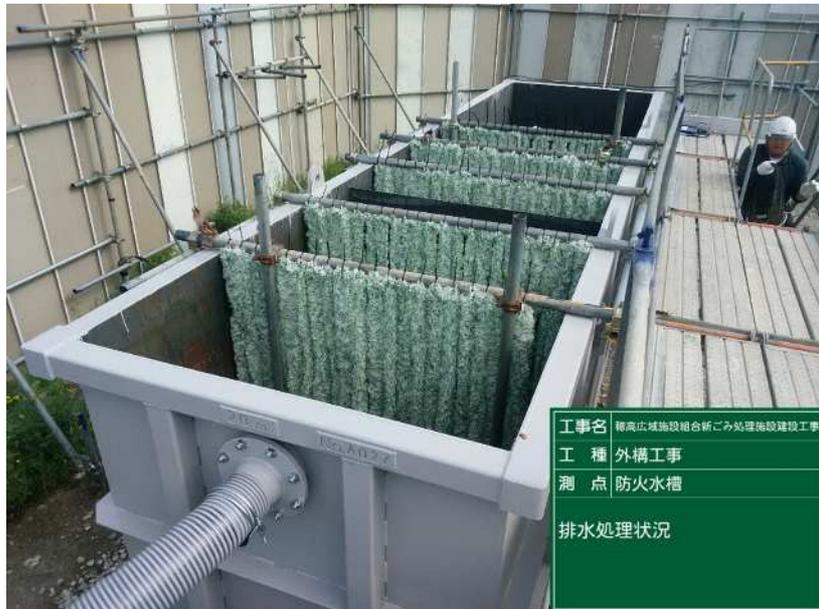
根切り状況



仮設処理水槽 全景



仮設処理水槽 除濁タブ セット状況



仮設処理水槽 除濁モジュール セット状況



水中ポンプ セット状況



排水処理状況①



排水処理状況②



濁度・pHの計測



基礎コンクリート 打設完了



防火水槽 据付完了



埋め戻し完了



仮設処理水槽撤去後（赤線表示箇所）

3. 調査の結果

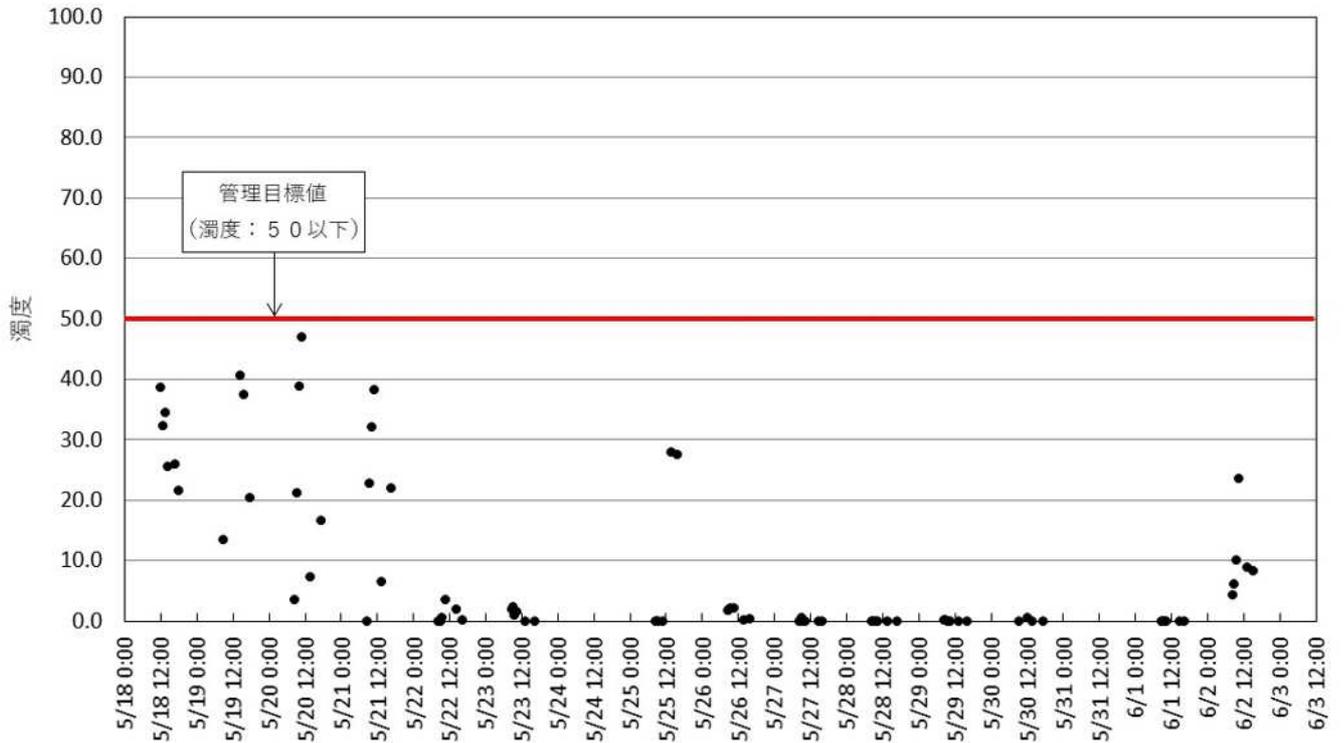
3-1. 水質

汲み上げた湧水の処理後排水について、濁度と pH の計測を日中数時間ごとに実施した。調査結果は表①-2、及び図①-1、2 に示すとおりである。工事期間中、水質の管理目標の濁度 50 以下及び pH6.5～8.5 の範囲を外れることなく推移した。

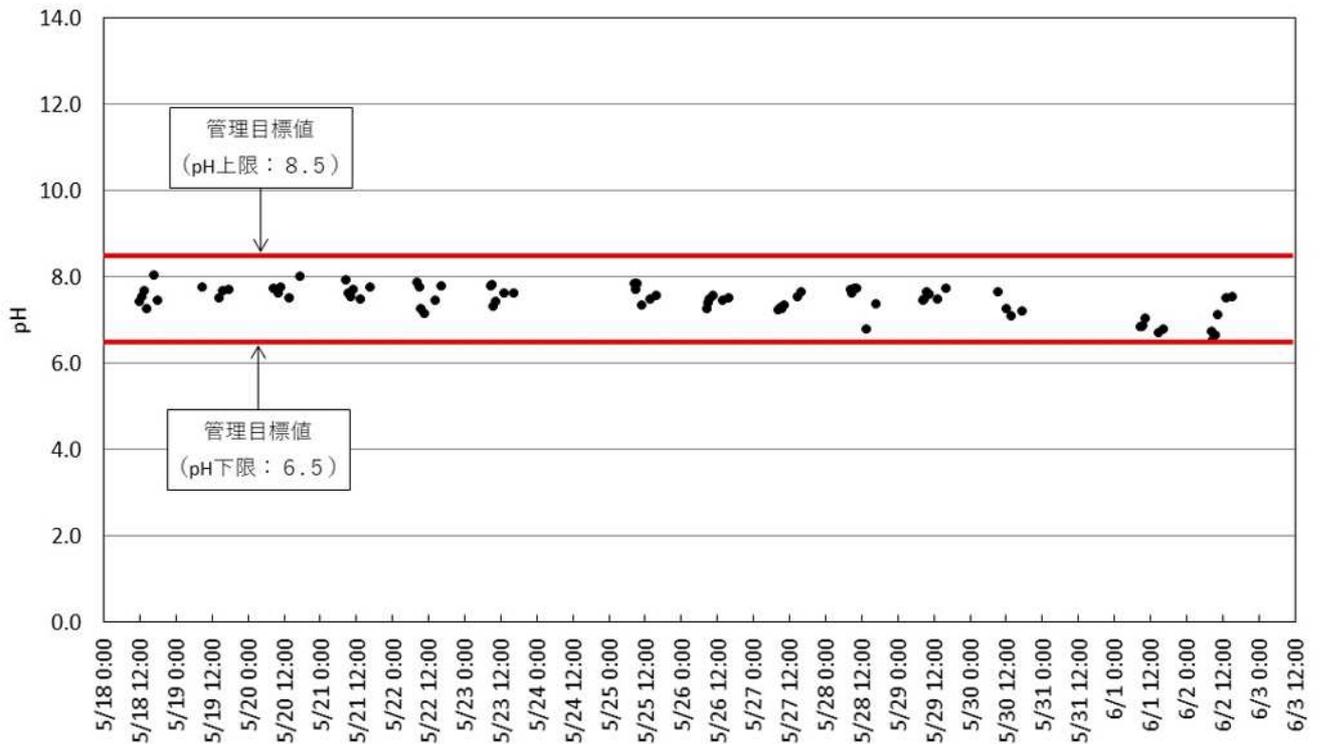
表①-2 処理後排水の水質の調査結果

日時		濁度	pH
5月18日	12:05	38.6	7.44
	12:51	32.2	7.55
	13:37	34.4	7.67
	14:19	25.5	7.27
	16:39	25.9	8.04
	18:15	21.5	7.45
5月19日	8:53	13.5	7.76
	放流一時停止		
	14:36	40.6	7.50
	15:53	37.4	7.67
	17:54	20.4	7.71
5月20日	8:43	3.4	7.72
	9:25	21.2	7.70
	10:05	38.9	7.62
	11:02	46.9	7.76
	13:49	7.3	7.51
	17:27	16.6	8.00
5月21日	8:34	0.0	7.92
	9:19	22.7	7.62
	10:15	32.1	7.53
	11:07	38.3	7.71
	13:33	6.4	7.49
	16:28	22.0	7.77
5月22日	8:20	0.0	7.86
	9:06	0.0	7.75
	9:44	0.5	7.27
	10:38	3.5	7.14
	14:22	1.9	7.45
	16:08	0.1	7.78
5月23日	8:46	1.9	7.79
	9:08	2.2	7.81
	9:32	1.0	7.31
	10:33	1.4	7.42
	13:20	0.0	7.63
	16:23	0.0	7.63
	5月25日	8:29	0.0
9:14		0.0	7.71
9:33		0.0	7.85
11:02		0.0	7.35
13:59		27.8	7.49
16:01		27.4	7.57

日時		濁度	pH
5月26日	8:27	1.6	7.26
	9:08	1.8	7.40
	9:39	2.0	7.49
	10:46	2.1	7.56
	13:48	0.1	7.45
	15:57	0.3	7.50
	5月27日	8:28	0.0
9:05		0.5	7.28
9:36		0.0	7.27
10:31		0.0	7.34
14:44		0.0	7.55
15:56		0.0	7.66
5月28日		8:33	0.0
	9:01	0.0	7.62
	9:44	0.0	7.72
	10:25	0.0	7.73
	13:49	0.0	6.79
	16:56	0.0	7.38
	5月29日	8:40	0.1
9:02		0.1	7.48
9:41		0.0	7.66
10:36		0.0	7.59
13:34		0.0	7.48
16:15		0.0	7.73
5月30日		9:29	0.0
	12:09	0.6	7.27
	14:03	0.0	7.10
	17:16	0.0	7.21
6月1日	8:42	0.0	6.84
	9:06	0.0	6.85
	9:42	0.0	6.86
	10:35	0.0	7.03
	14:12	0.0	6.70
	16:22	0.0	6.78
6月2日	8:36	4.2	6.73
	9:01	6.0	6.53
	9:37	10.0	6.64
	10:33	23.5	7.13
	13:35	8.9	7.50
	15:08	8.3	7.54
6月3日	8:30	放流終了	
仮設処理水槽①	9:08	17.4	7.20
仮設処理水槽②	9:11	0.5	7.30
仮設処理水槽③	9:04	1.3	7.15
最高		46.9	8.04
最低		—	6.53



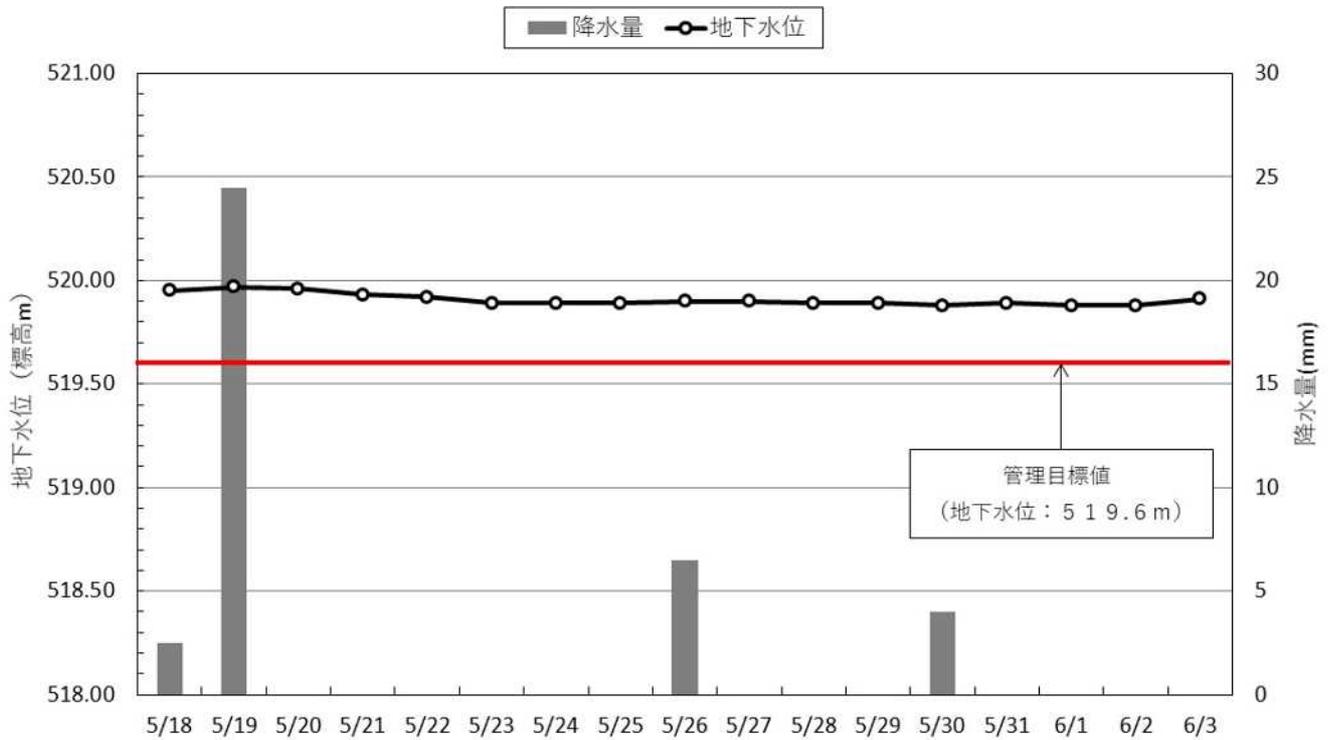
図①-1 処理後排水の濁度の調査結果



図①-2 処理後排水の pH の調査結果

3-2. 水象（地下水位）

対象事業実施区域内の地下水位（日最低値）は、図①-3に示すとおりである。併せて穂高地方気象観測所の日合計降水量も掲載した。工事期間中、管理目標である地下水位 519.6m（対象事業実施区域の南側の湿地の水面標高）を下回ることなく推移した。



図①-3 観測井の地下水位の推移

4. 河川水質及び地下水位への影響

工事期間中、排水の水質について目標値を設定して管理することで、下流の河川水質に十分配慮した。また、観測井の地下水位についても目標値を設定して管理することで、地下水位を大幅に低下させることはなく、湿地の水位にも影響を及ぼす水準とはならなかった。

＜アオガヤツリの播種について＞

1. 実施内容

アオガヤツリの保全計画(表②-1)に沿って、個体の移植等に係る保全措置として、播種を試行した。播種の試行は令和2年6月10日に実施した。

表②-1 アオガヤツリの保全計画

	保全措置内容	実施計画
建設工事中	個体の移植等	令和2年度に、試行的に緑地への播種を行い、保全措置の効果の試験を行う。 周辺の植物の除去、表土のかく乱などによりやや湿った状況を創出した上で、採取した種子の一部を播種し、生育状況の記録を行う。 実施時期は5月頃とする。 試験の結果を踏まえて、供用後の播種の仕方、管理等を検討する。
供用後	草地環境の維持	緑地は適度な草刈りを行い、草地環境を維持する。 草刈りは、高茎草本の繁茂を抑え、丈の低い草地環境を維持することを主眼として行う。 初夏と初秋の2回程度を基本とし、植物の繁茂状況を見つつ実施する。
	個体の移植等	試験播種の結果を踏まえて、令和3年度に保全措置としての播種を行う。 草刈り等の管理をしつつ、令和3年度の生育状況を観察する。

2. 実施手順

播種の試行は、次の手順により実施した。

- ①アオガヤツリの生育環境に適すと考えられる、緑地内の湿った砂礫質の場所を選定。
- ②環境傾度を想定して、水分条件の異なる緩やかな斜面に線上に10カ所の播種領域を設定。
- ③移植ゴテを用い、表土を15cm四方程度の範囲で耕起。
- ④平成30年度に採取した種子を播種。
- ⑤灌水を行い、場所をマーキング。

3. 実施後の予定

播種後は結実時期まで定期的に、発芽、生育、開花、結実状況を観察する。

4. 実施状況



播種実施前



播種の実施状況



灌水の状況



播種完了時の状況

1-2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

対象	知事の意見 (工事中に関連する部分について、原文)	事業者の見解 (工事中に関連する部分について、原文)	作業位置	環境保全措置	環境保全措置		
					種類	実施内容	実施状況
全般	施設整備や管理運営について、安全性の確保や環境の保全に最大限配慮するとともに、稼働状況、モニタリング結果等の情報をわかりやすく積極的に公表し、地域住民の安全・安心の確保に努めること。	安全性の確保や環境の保全に最大限配慮して施設準備や管理運営を行います。工事中は、工事の進捗状況やモニタリング結果等を組合ホームページ等で公表します。共用開始後についても、稼働状況や検査結果を組合ホームページ等で公表し、地域の皆さんの安全・安心の確保に努めます。	—	—	—	ホームページで工事の進捗状況を公表します。	ホームページで工事の進捗状況を公表しています。
水象	地下水について、良好な水循環が行われるよう、水の浸透や蒸発散に関して適切な配慮がなされた施工計画を検討すること。	区域内の雨水排水は地下浸透を原則とし、また緑地は敷地面積に対して最低でも20%以上とすることで、蒸発散や地下浸透を妨げないように十分に配慮します。	対象事業実施区域	水の蒸発散や地下浸透を妨げないように配慮	低減	敷地面積に対して緑地面積を20%以上確保し、水の蒸発散や地下浸透を妨げない計画とします。外構舗装工事を工事の終盤に実施し、工事中も水の蒸発散や地下浸透を妨げないようにします。	実施設計で緑地面積を20%以上確保しており、計画に沿って施工しています。外構舗装工事を工事の終盤に実施する計画工程とし、計画に沿って施工しています。
水象	事業実施区域は地下水位が高いことから、現状想定される最大の環境影響を踏まえた上で、最深部の掘削について、地下水位が安定した湧水期に実施すること。	地下水への対策として、プラットホームを3階に設けるなどのできる限り掘削深度を小さくする配慮を行います。また掘削時期については、地下水位が安定した湧水期に開始するよう計画します。	対象事業実施区域	掘削深度を小さくする湧水期に掘削を開始	低減	プラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画とします。掘削は地下水位が安定した湧水期に実施します。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施します。	プラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画としています。掘削は地下水位が安定した湧水期に開始しました。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施しました。
動物	コウフオカモノアラガイについて、できる限り生息地の改変を回避すること。改変を回避できない場合は、類似した生態のカタメマイの生息地に移植を行うことを検討すること。	コウフオカモノアラガイについては、生息地の改変を回避するよう、施設配置計画及び工事計画を検討します。どうしても回避できない場合は、類似した生態のカタメマイの生息地を参考に、現地調査を行った上で移植適地を検討し、移植を行います。	対象事業実施区域	生息地の改変回避または移植	低減	緑地を計画し、コウフオカモノアラガイの生息地の改変を回避する施設配置計画とします。	コウフオカモノアラガイの生息地を緑地として残置する施設計画とし、残置部分の立ち入り禁止措置をして施工しています。
景観	事業実施区域は松本・安曇野方面と大町白馬方面を結ぶ幹線となる道路に接しており、道路の屈曲部にあることから視認性が極めて高い。それを踏まえて、施設の設計に当たっては、建物と煙突の形状・意匠・色彩などに十分配慮すること。	幹線道路や周辺の道路、あづみ野ランドからの景観を考慮して、建物と煙突の形状・意匠及び色彩などに十分配慮した設計を行います。	対象事業実施区域	形状・意匠・色彩に配慮	低減	曲面形状の屋根を採用することで、幹線道路や周辺道路から見たときに、あづみ野ランド等の周辺施設と調和したデザインとしました。また、あづみ野ランドの利用者から見える壁面を曲面形状とするとともに、煙突を最も遠くに配置することで、あづみ野ランドから見たときの圧迫感を低減する計画としました。	左記の通り施設計画を行い、計画に沿って施工をしています。

【環境保全措置の種類】
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化: 実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

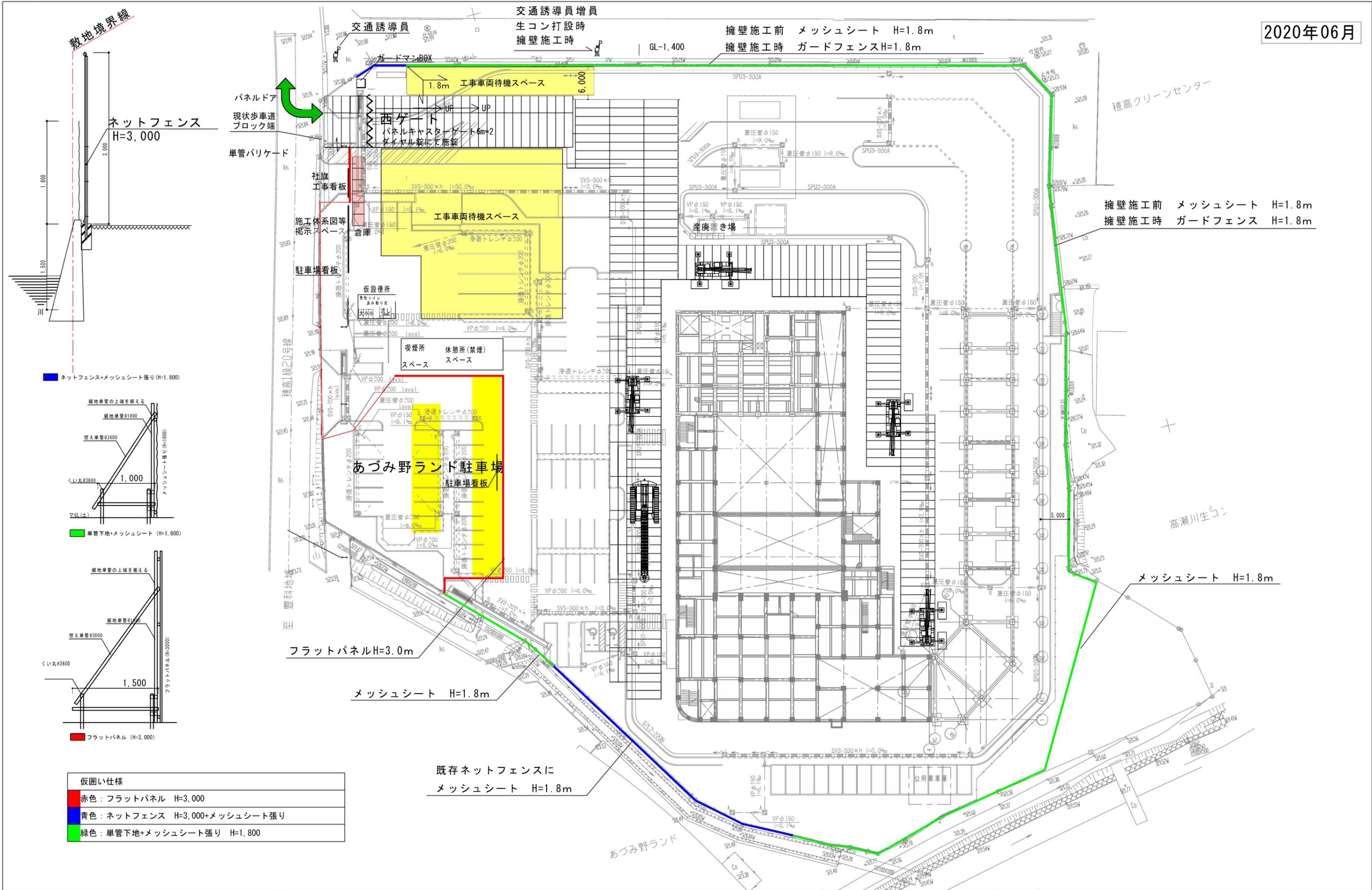
2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真

2-1_工程表

		2018年度												2019年度												2020年度												備考			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		1	2	3
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
■全体スケジュール		★ 契約												設計・建設												引渡												★			
■ 建 築 工 事	準備工事													▽2/21起工式																											
	地盤改良・造成工事																																								
	建築工事																																								
	外構工事																																								
■プラント工事																																									
■試運転																																									

2-2_総合仮設計画図

2020年06月



仮囲い仕様

赤色	フラットパネル H=3,000
青色	ネットフェンス H=3,000+メッシュシート張り
緑色	単管下地+メッシュシート張り H=1,800

株式会社 武井組 ◆ 株式会社 武井組 一級建築士事務所 一級建築士事務所 長野県知事登録 松本2X332号 一級建築士 酒井 義人 大臣登録 第242341号	日付	訂正及び変更内容	日付	追加内容	発注者 〇 〇 〇 〇	監理者 〇 〇 〇 〇	施工者 〇 〇 〇 〇	工事名 穂高広域連合組合新ごみ処理施設建設工事 図面名 総合仮設図 図面番 5-1	日付 2020/6/30 (出力年月日: 2020/6/30)	縮尺 A1: 1:300 A3: 1:600	図面番 5-1 作図担当 Jww (Ver.03a)
	〇 打合せ図 〇 チェック図 〇 決定図 【決定日: 1										

2-3_現況写真



4月



5月



6月

2-4_主な工事写真



工場棟 建築工事 (4月)



工場棟 建築工事 (5月)



防火水槽 建築工事 (6月)

2-4_主な工事写真



プラント工事 ボイラ地組状況 (4月)



プラント工事 ボイラ据付状況 (5月)



プラント工事 ごみクレーン据付状況 (6月)